

神奈川県ビリヤード協会 -理事会 議事録-

2025.11.5 12:00～ 14:00 Zoom 会議

参加者：安藤・田口・荻原・板橋・黒岩・石井・杉万



| 1

議論内容：

1. 神奈川県知事杯の反省（石井）
2. 県代表の女子級（黒岩）
3. わかばカップ（安藤）

議題 1：神奈川県知事杯の反省

I. 日程・大会構成

- 今年の運営を踏まえると定員 96 名は早期に埋まり、キャンセルも想定内だった。来年は 128 名編成で組めると見ている。1 日開催のまま増やすなら「1 回転増」に合わせてセット数を下げるべきだと考える（荻原）。
- ベスト 16 までの進行は「1 時間半見積り」で問題なかったが、ベスト 16 以降は体力・集中力の低下やラック立ちの停滞もあり時間を要した。後半はセットダウンで対応したい（荻原）。
- その方向性で概ねよい。定員は増やしたい一方、神奈川の「9 先」の伝統は残したい。後半が遅くなるのは見えているのだから、予選終了後の進行調整をどう巧くやるかが鍵だと思う（安藤）。
- ベスト 16 までは実力差がある分だけ終局が早い、以降は拮抗してフルセットになりやすい。主催者が決定すべき方式の「9 先」はずっと続けてきたのか（黒岩）。
- 以前は 9 先で実施していたが、その頃は現在ほど参加人数が多くなかったため、当時の運営規模では問題なく成立していた（田口）。
- 128 名を超える規模なら 2 日開催も要検討だが、会場費の問題がある。できれば 1 日で終える設計にしたい。受付時間を 30 分繰り上げるなど、終盤にゆとりを持てるように案を KPBA でまとめ、KBA とすり合わせたい（荻原）。
- 時短には「セットダウン」と「セットアップ」があるが、セットダウンを選ぶ根拠を確認したい（石井）。
- 現在は事前エントリーと振込で実施している。来年は 128 名フルエントリーを前提とすると「セットアップ」は予選のセット数を下げることで参加読みにブレが出る。一方で「セットダウン」は集客面や実力差の明確化というメリットもあり、納得感が生まれる。まずはセットダウンで臨み、フルエントリーが安定するようであれば将来的にセットアップも検討したい（荻原）。

【タスク】 来年度方式案を KPBA から KBA へ提示（荻原）。

II. 大会要項・ルール明確化

- 女子ドレスコードが不明確／要項が煩雑で読みづらいという声があった。要項は簡素化し、重要事項の明示方法を整理したい（石井）。
- 要項は丁寧に書いている分、情報量が多くなる。女子のドレスコードは男子と同一基準でよい。ブレイク（勝者／交互）は次回要項に明記する。エントリーフィーの扱いや追加枠の設定は、大会の受付方法・定員管理・運営手順といった“大会運営方式”に属する事項であるため、要項に詳細を過剰に盛り込む必要はないと考える（黒岩）。

- 女性はスカート可否、キュロット等の扱い、靴（サンダル不可・踵の形状など）、襟なし／ハイネック風のブラウス等で迷いやすい。具体的に定義してほしい（杉万）。
- 黒系革靴に関する問い合わせが多い。ローファーやパンプスの扱いをはっきりさせたい（石井）。

【結論】

- **ドレスコードは KBA 基準を別途定義し、HP に掲載。要項は概要 + 参照リンクにとどめる。**
- **ブレイク方式は要項へ明記。**

| 2

Ⅲ. エントリー（加盟店優先・メール・所属確認）

- KBA 主催の大会なのだから加盟店所属選手の優先は妥当。来年は「加盟店優先 96 + 一般 32 = 128」で受け付けたい。絶対出たい人は開始 1 時間以内に申し込む傾向があり、50～60 名程度は確実に見込める（荻原）。
- 加盟店の年会費で KBA の活動（KBA 杯や女子級代表補助、普及活動の赤字補填など）が成立している。加盟店優遇は当然の設計だと思う（杉万）（黒岩）。
- KBA 主催が加盟店と KPBA で埋まっても不自然ではない。非加盟店所属選手の不満は理解しつつ、出場したければ「加盟店所属になってほしい」という方針でよい（黒岩）。
- 自動返信メールの「仮受付」の表現は初見にわかりにくいという声があったが、今年を経て来年は理解が進むので、文面は当面このままでよいと思う（黒岩）。
- 定員到達時に自動で締め切る方式を検討したい（荻原）。
- 無料で実現できるのが望ましいが、一般にショッピング機能（カートの在庫 = 定員）は手数料が発生する（杉万）。
- 送信ボタンの押下回数でカウントは可能だが、自動応答不達による重複申し込みが毎年数件あり、カウントと実数の乖離が出る。最終的には目視確認が必要（石井）。
- 来年は優先と一般で締切・仮受付・キャンセル待ち等の通知が増え、人的オペレーション負荷が上がる。システム面の見直し案を検討する（石井）。
-

【結論】

来年度は「96（優先） + 32（一般） = 128」で実施。

仮受付メールは現行維持。

システム改善は検討継続（石井）。

Ⅳ. 運営・備品・人員

- KBA のチェスクロックが不足し、KPBA のチェスクロックを借りたが仕様差（表示・リセット方法）でセットできる人が限られた。片側時間切れで操作不能→試合中断→再設定の手間も発生する（荻原）。
→KBA でチェスクロックを追加購入する方向で検討する。
- ポケット部門の責任者が当日不在だった。日程は事前確定事項であり、責任者としての自覚を持って臨んでほしい（黒岩）。
- 当日は来ない前提で最低限の人員計画を組み、KPBA の支援で回した（安藤）。
- 今後は「出席が難しい場合の代理指定」を含め、責任体制を明確にしておく（安藤）（黒岩）（杉万）。

【結論】

チェスクロックの追加確保を検討。

ポケット責任者の出席義務と代理体制を明文化。

V. 広報・デザイン

- ポスターや要項が「情報が多く見づらい」という意見があった（石井）。
- 歴代優勝者の掲載は歴史性や励みになる点で残したい（黒岩）。
- エントリー誘導用と観戦向けでポスターを分ける案もあり得る（板橋）。
- 今年はかなり情報を絞った経緯もあり、ブレイク方式の追記以外は大きな変更は不要と考える（黒岩）（荻原）。

【結論】

ポスターはブレイク方式を追記し、他は現行維持。

議題 2：県代表の女子級

- KBA 杯（B 級代表選抜）や県知事杯（A 級代表選抜）で女子が優勝した場合でも、全国は女子級にしか出場できない現行制度はおかしい。本来は「優勝したクラス」で出場すべきだと考える（黒岩）。
- 現行制度は NBA の全国規定に基づく。変更には NBA 総会での決議が必要（石井）。
- 制度制約は理解するが、女子級の大会を先行開催する案もあり得る。同時開催など他県との整合性含め要検討（板橋）（荻原）。
- 外国籍選手は「代表特典なし」を前提に出場を認めている。女子も「出場可・代表権なし」と整理すれば機会は担保できる（杉万）。

【結論】

- **KBA 主催の出場自体は認めるが、代表枠（特典）は付与しない。**
- **女子級の選考会を別途実施。年間ポスターに掲載。**
- **KPBA 内で意見を取りまとめ、課題がなければ運用開始。**

議題 3：わかばカップ

- 加盟店アンケートでは歓迎度合いに濃淡があった。赤字イベントでもあり、年 4 回実施は見直したい（安藤）。
- 企画の趣旨は「C 級・初心者モチベーション形成」。形式にこだわらず柔軟に設計してよい（杉万）。
- 勝敗偏重でなく「楽しめる」設計に寄せ、講師配置など“協会ならではの”価値も打ち出したい（石井）。
-

【結論】

次年度は頻度・内容を柔軟に見直す。

初心者が楽しめる新形式のイベントも検討。

以上